

## 第1回 小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨

日 時：平成30年3月8日（木）13：30～16：30

場 所：独立行政法人水資源機構 朝倉総合事業所 1F 大会議室

出席者：（委員）古賀部会長、荒井委員、飯田委員、小野委員、広渡委員、松井委員、真鍋委員、  
山根委員

（事務局）16名

（オブザーバ）朝倉市、東峰村、国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所、  
工事関係者

（報道機関）1社

資 料：

議事次第

資料-1 出席者名簿

資料-2 小石原川ダムモニタリング部会の設置について

資料-3 小石原川ダムモニタリング部会 規約（案）

資料-4 小石原川ダムモニタリング部会の公開方法について

資料-5 第5回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨

資料-6 平成29年度の環境調査・検討結果

資料-7 小石原川ダムモニタリング調査計画（案）

審議内容等：

### 1. 小石原川ダムモニタリング部会の設置について

小石原川ダムモニタリング部会の設置について事務局から説明があり、了承された。

### 2. 小石原川ダムモニタリング部会 規約（案）について

規約について事務局より説明し、内容を了承された。

部会長は、古賀委員が選出された。

規約第4条4項の「部会長があらかじめ指名する委員」は、古賀部会長が松井委員を指名し、  
了承された。

### 3. 平成29年度の環境調査・検討結果について

#### （1）事業の進捗状況について

小石原川ダム建設事業の流れ、工事進捗状況と平成30年度工事予定、事業全体の予定工程に  
ついて事務局より説明し、部会として内容を確認した。

#### （2）第5回環境保全対策検討委員会の審議結果について

第5回委員会の意見等について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

### (3) 環境保全対策等の実施状況について

生息環境等の整備、植物の重要な種、動物の重要な種、大気環境、水環境、環境に配慮した取り組みについて事務局より説明した。部会から出された意見は次のとおり。

- ・ 溪畔林の整備について、スミスネズミの生息環境として考えると、もう少し植栽密度を上げることを検討して欲しい。
- ・ 湿地環境の整備について、湿地内に両生類等の隠れ場となるU字管などをいれることで、より多様な環境にすることができる。
- ・ コキクガシラコウモリは冬眠の際にコロニーを形成するので、冬場の調査で複数個体が確認できることが一つの目安となる。また、コウモリトンネル内の温度と湿度が重要なので、引き続き測定を継続すると良い。
- ・ 爬虫類の保全対策として、貯水池周辺等にじゃかご工等を設置することで生態系の保全に繋がると考えるため、今後、検討して欲しい。
- ・ 導水施設の取水口のある佐田川についても、オオサンショウウオの生息について環境DNA調査で確認することを検討して欲しい。

### (4) クマタカ検討部会の報告について

- ・ クマタカ検討部会の開催状況、審議内容を報告した。
- ・ モニタリング対象としているクマタカ5つがいの繁殖状況を報告した。

## 5. 小石原川ダムモニタリング調査計画について

モニタリング調査計画について事務局より説明した。部会から出された意見は次のとおり。

### (1) 環境保全措置等の効果の把握について

- ・ コキクガシラコウモリの調査の調査回数について、年4回としているが、コウモリトンネルは冬場に利用されているため、冬季の調査回数の追加を検討して欲しい。
- ・ 常落混交広葉樹林等の復元・整備の哺乳類調査について、春、夏、秋の3回とされているが、ネズミ類のトラップ調査は冬季に効果があるため、調査回数の追加を検討して欲しい。
- ・ 常落混交広葉樹林等の復元・整備、湿地環境の整備及びオオムラサキの保全対策の評価の視点については、整備効果を得るには長期間が必要であり、モニタリング調査期間中に保全対象種の利用を確認することは困難と考えられる。このことから、評価の視点については「保全対象種等の生物が利用できるような良好な環境が形成されていること」などに見直すと良い。
- ・ 常落混交広葉樹林等の復元・整備の昆虫類調査時には、ミヤマチャバネセセリだけでなくオオムラサキ成虫の確認にも留意すると良い。また、チョウ類については、目撃法による確認の証拠として写真を撮影しておくが良い。

### (2) 環境変化の把握について

- ・ 底生動物調査の際に、河川物理環境の補足的なデータ（写真を撮影する等）を合わせて取得すると良い。
- ・ 調査結果については、生態系の観点からも整理することを検討して欲しい。

以上